全中社研会報

全国中学校社会科教育研究会
（略称全中社研）
http://www.zenchusya.com
発行者　齋藤博志
編集者　桐野和之
練馬区立大泉学園中学校
TEL 03-3925-4492

全中社研大阪大会を振り返って

大会主題『一人ひとりを見つめ、ともに学ぶ社会科学習』―交わる・つながる、高めあう―のもと、第四十六回全国中学校社会科教育研究大会を、平成二十五年十一月七日・八日に、大阪市で開催した。全国各地から、第一日目約六百名、第二日目約七百名の方々にご参加いただいた。

【第一日目・全体会】
会場・クレオ大阪中央

●開会式
齋藤博志全中社研会長、紀井正澄大阪大会実行委員長の挨拶に続き、中尾敏朗文部科学省初等中等教育局視学官、坂本暢章大阪府教育委員会参事、沢田和夫大阪市教育委員会・大阪市教育センター所長、木谷博堺市教育委員会次長からご祝辞をいただいた。

●基調提案
李洪俊研究部長が、今までの研究の流れ、社会科における「協同的な学び」とは、そして、今大会の主題設定の趣旨等の提案を行なった。

●記念講演
学習院大学教授・東京大学名誉教授佐藤学先生による「授業研究の伝統と革新～学びを中心とする教育の創造～」と題したご講演をいただいた。今大会は、「協同的な学び」の手法を取り入れた授業づくりをめざしてきており、その点で多くのご示唆をいただいた。

●表彰
全中社研に貢献された勇退者への記念品の贈呈に続き、次年度研究大会の開催地である滋賀県から滋賀大会の案内を行なった。

【第二日目午前・公開授業】
会場・大阪教育大学天王寺キャンパス

●公開授業
○地理的分野
川口由美子教諭が「ヨーロッパ州～EUに暮らす人々～」、祐野俊樹教諭が「転換期をむかえる近畿地方の工業～『自転車』を例に～」の授業を行なった。
○歴史的分野
板橋彰教諭が『『世界の工場』の光とかげ～産業革命と資本主義社会の成立～』、飯島知明教諭が「不平士族と西南戦争」の授業を行なった。
○公民的分野
辻純也教諭が「もっとええまち一緒につくろうや～住民参加の拡大～」、浅野哲司教諭が「これ、なんぼ？～価格の決まり方～」の授業を行なった。

【第二日目午後・分野別研究協議、研究発表】

●研究協議
○地理的分野
柴田邦浩副委員長が分野別提案を行ない、討議後、大阪教育大学名誉教授木下百合子先生から、ご指導をいただいた。
○歴史的分野
中村憲司副委員長が分野別提案を行ない、討議後、池田市教育委員会丹松美代志先生から、ご指導をいただいた。
○公民的分野
山中延宏委員長が分野別提案を行ない、討議後、大阪教育大学教授手取義宏先生から、ご指導をいただいた。

●研究発表
○地理的分野
岐阜市立東長良中学校今西祥幾教諭が研究発表を行なった。その後、濵野清文部科学省教科調査官よりご講評をいただいた。
○歴史的分野
彦根市立稲枝中学校久保田重幸教諭が研究発表を行なった。その後、中尾敏朗文部科学省視学官よりご講評をいただいた。
○公民的分野
小金井市立小金井第二中学校藤田琢治教諭が研究発表を行なった。その後、樋口雅夫文部科学省教科調査官よりご講評をいただいた。
大阪大会実行委員会
事務局長　文田　英之
（大阪市立本庄中学校長）

全中社研大阪大会を終えて

全国中学校社会科教育研究会会長
（東京都八王子市立みなみ野中学校長）　齋藤博志

今年度の大阪大会は十一月七・八日の二日間、大阪府大阪市において開催されました。開催時期が地方の各ブロックにおかれましても大会が開かれる十一月でしたが、全国から千名を超える参加者があり、大変盛会裏に終了することができました。大会運営に当たられました紀井正澄大阪大会実行委員長をはじめ実行委員会の先生方（大阪府、大阪市、堺市、大阪教育大学附属中学校三校の先生方＝オール大阪）の献身的なご努力に対し、心より感謝申し上げます。

大阪大会の研究主題「一人ひとりを見つめ、ともに学ぶ社会科学習」のもとにこれまで研究実践してきた「協同的な学び」をさらに充実・深化させ、生徒の学び合いをいかに保障していくかの研究成果を発表し、これらの社会科授業、特に言語活動を充実させる授業の在り方について実践がなされていました。さらに、研究協議では、公開授業と同様にグループに分かれ参会者全員が活発な意見交流がなされ、研究成果の共有化が図れたことは、今後の大会のモデルとなるでしょう。大会記念講演は、東京大学名誉教授の佐藤学先生に「授業研究の伝統と革新」と題して、社会科授業の在り方について多くの示唆をいただきました。

現在、若手教師の育成が課題となっていますが、今大会では、授業者を含め若い先生方が様々な場面で活躍されていたことに頼もしさを感じました。

次年度の第四十七回は滋賀大会です。滋賀県中学校教育研究会社会科部会の先生方のご研究にご期待申し上げ、報告といたします。

全中社研大阪大会を終えて

大阪大会実行委員長
（大阪市立南中学校長）　紀井正澄

第四十六回大阪大会を十一月七日・八日に、延べ千名を超える参会者を迎えて開催しました。平成十九年の近畿大会から取り組んできた「協同的な学び」を取り入れた授業を通して、生徒たちの学びをいかに保障するかという研究活動の成果を発表しました。「明日からの授業に使える」と思ってもらえることを目指して、生徒の実態や授業者の個性を大切にした授業を工夫したつもりです。知識注入型の一斉授業から脱却するため、さまざまな新しい視点で取り組みました。記念講演をしていただいた佐藤学先生の以下の発言は非常に示唆に富むものです。「学びは一人では成立しない。協同的な学びは、社会科の学びの本質である。協同的な学びの要諦は、教えあいではなく学びあいである。」

基調提案や研究紀要・資料は「わかりやすい」ということを常に念頭において作成し、研究協議も公開授業と同様、グループに分かれて全員が発言するという形式を取り入れました。三分野とも活発な意見交流が行われ、予想以上の盛り上がりを見ることができたことは、この上ない喜びです。

研究大会は大変な労力を要しますが、楽しむことも大切です。それがなければ大会終了とともに活動は衰退していきます。大会翌日、それまで苦労を共にしてきた若手教員が「大阪大会、楽しかったです。」と言ってくれました。その時、全国大会は絶対に継続・発展していくと確信しました。

最後に、大阪大会の開催にご協力いただいた全中社研の皆様、誠にありがとうございました。

●指導助言
丹松美代志氏
（池田市教育委員会教育課題研究推進員）

社会科では協同的な学びでどの生徒にも市民性（シチズンシップ）を培う学びを保障することが大切である。とりわけ、授業づくりにおいて課題と資料が決め手であり、事実に基づく問題解決学習を構成するとともに「自分の生き方と結び付ける」ことが不可欠であるとご指導いただいた。

●講師講評
中尾敏朗氏
（文部科学省初等中等教育局視学官）

歴史的分野の実践研究においては、思考力や近現代を重視している点で、学習指導要領の趣旨をよくくみ取っていると講評していただいた。ただし、「主体的な学習」「基礎的・基本的」等、言葉をきちんと定義し、よく吟味した上で研究を進めていくことの重要性を指摘していただいた。

公民的分野発表報告

●分野別提案
○提案者
山中延宏教諭
（大阪市立大和川中学校）

学習指導要領の改訂を踏まえつつ、大会主題のもと、研究の方向性を「多面的・多角的な見方や考え方の育成と自分の考えを論述する言語能力の充実」を目指し、研究を進めた。

公民的分野では、日常生活に結びつけた学習課題を設定して社会のしくみを理解させることが多い。一方、聞きなれた「用語」が多い割には、その意味を正確に理解しているとは言い難い面がある。そのため、とりあげる教材と課題の設定にポイントをおいて研究を進めていった

●公開授業Ⅰ
○題材名
「もっとええまち一緒につくろうや～住民参加の拡大～」
○授業者
辻純也首席
（大阪市立歌島中学校）

地元の「大野川緑陰道路」が建設されたいきさつや住民の願いを知り、今後のありかたについて考えさせた。「対立と合意」の視点も取り入れ、様々な立場から、住民として進んで地域社会や政治にかかわっていこうとする意識を高めさせた。また、西淀川区の副区長に参加していただき、行政担当者としての意見を述べていただいた。

●公開授業Ⅱ
○題材名
「これ、なんぼ？～価格の決まり方～」
○授業者
浅野哲司教諭
（寝屋川市立第十中学校）

需要と供給の関係以外に、どのような価格の決定要因があるかについて考察させた。大阪に本社のある企業が製造する「ボディーペーパー」を教材に取り上げた。グラフ資料や企業の「お役立ち情報」をもとに、「きゅうりは月によって価格が変わるが、なぜボディーペーパーは出荷量が変わるのに、価格が変化しないのか」について考えを深めさせた。

●研究発表
藤田琢治教諭
（小金井市立小金井第二中学校）

「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の概念の習得と活用を目指した活動型授業の研究

「対立と合意」、「効率と公正」に関する概念を理解させるとともに評価規準を検討している。パネルディスカッションとワークショップを組み合わせることで生徒の思考や知識を深めさせる事例が提案された。

●指導助言
手取義宏氏
（大阪教育大学教授）

「地方自治や経済という生徒にとって分かりにくい単元であるにもかかわらず、身近な教材を取り上げることで、ほとんどの生徒が興味・関心を持って取り組み、学びあいを行っていた。」との指導助言をいただいた。

●講師講評
樋口雅夫氏
（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

「学習指導要領・社会科の着実な実施に向けて」というテーマでご講演をいただいた。また、今大会の研究提案、公開授業、研究協議、評価に関する考え方などが学習指導要領の目指しているものと合致し、非常に意義深いものであったとの講評をいただいた。

三分野の研究協議について

どの分野も研究協議は8～10人のグループ単位で行った。

授業内容を中心とした研究協議ではなく、授業の中で生徒がどのように活動し何を学んでいるかということを軸に話し合った。

グループ内で参加者のほぼ全員から意見や感想を出していただくことができ、大変活発で有意義な研究協議の場となった。

「協同的な学び」を生かした授業構成に関して、「教師がもっと主導権を発揮し、リードすべきではないか」という声があったが、「一斉授業であれば取り残されてしまいかねない生徒たちが、一生懸命授業に参加する姿が見受けられた」との感想が数多く寄せられた。

第89回理事会

全国大会会初日の全体会終了後、第89回全中社研大阪理事会が61名の理事の皆様の参加を得て、開催されました。下川孝廣副会長（九州）の開会の挨拶のあと、齋藤博志会長の挨拶、紀井正澄実行委員長の挨拶、安田和文前香川大会副実行委員長の挨拶がありました。続いて、事務局長から第88回滋賀理事会の内容と高田満彦滋賀県会長から次年度全国大会開催に向けての取組が報告されました。議事としては、DVD資料集の全中社研の監修等と会報の発行方法等の変更についての二点が会長・事務局より提案があり、了承されました。

その他として、次回理事会開催地の小野木卓岐阜県会長より、平成26年7月5日㈯に「岐阜都ホテル（岐阜県岐阜市）」で行うことと、事務局より「冬季セミナー2013」の開催要項が提案があり了承されました。最後に榎登志裕副会長（関甲信）の言葉により閉会いたしました。

編集後記

今号は、十一月に大阪府で開催された全国大会の報告を中心に構成しました。現場で使える研究発表を通して、活発な意見交換が行われ、大変な盛り上がりを見せたことが分かります。年度末のご多用の中、原稿をいただきました皆様に改めて感謝を申し上げます。

セミナーでは、平和の維持が東アジアの繁栄につながる事を再確認できました。

広報部次長　大瀧　訓久

全中社研「冬季セミナー2013」

全中社研と興プロ中社研共催の冬季セミナーは、平成25年12月26日に東京都文京区立茗台中学校で、約50名の参加者をもって実施いたしました。年末にもかかわらず、多くの先生方にご参加いただき、熱気あふれる会となりました。講師からは、①「習近平体制」とは②包囲される党～目覚めた民衆　③民主化要求の声④揺らぐ成長モデル　⑤中国とどうつきあうか　という構成で講演があり、中国版Twitter「ウェイボー」に掲載された写真なども提示され、興味深く聞くことができました。これからの社会科学習指導に大いに参考になる内容でした。

(1) 日時　平成25年12月26日㈭
午後2時30分～
(2) 会場　東京都文京区立茗台中学校
(3) 講演『激動する中国社会と日中関係のゆくえ』
講　師　神田外語大学教授
興梠　一郎先生

記念講演

授業研究の伝統と革新～学びを中心とする教育の創造～

学習院大学教授・東京大学名誉教授　佐藤　学先生

【講演要旨】

21世紀の社会と教育

これからの社会科授業は、①知識基盤社会、②多文化共生社会、③格差リスク社会、④成熟した市民社会、の4つの社会に対応する必要がある。また先進諸国の教育改革はすでに「質と平等」の同時追究をする方向に向かっている。

カリキュラムは、プログラム型からプロジェクト型へ、授業スタイルも協同的な学びへと変わる。それとともに教師の役割も、教えの専門家から学びの専門家に変わっていくことになる。

世界の教室は、もはや黒板を使うのではなく、男女4人班のグループ学習となっている。先進諸国で、日本だけが20年以上も遅れていると言える。

授業研究の歴史と概念

日本の授業研究は、1872年にアメリカの小学校教師スコットを招聘してから始まり、100年以上の歴史を持っている。

当初の授業は、I・R・Eで教師が発問し、生徒が答え、教師が評価する権力構造が主流であった。指導案も五段階から三段階になっていった。

それが、大きく変わるのが大正自由教育で、それまでの教え込み授業が批判され、新しい授業研究が生まれた。新教育運動の授業研究は、授業技術から子どもの学びが中心になる学習研究へと発展し、小グループ活動を中心にした「協同的な学び」が成立した。

戦後は、社会科を中心としてカリキュラムが自主的に作られ、独自の単元開発も盛んとなった。しかし、1955年ごろから急速に衰退していくこととなる。

授業研究の分流

授業研究は、1960年代より研究主体が、大学の専門家、行政の教育委員会、民間の教育団体、各学校現場での研究と大きく4つに分かれて、行われるようになった。

社会科の授業研究の革新へ

授業は、社会科としての質の高い学びを追究することになる。授業研究は、教師の授業を評価するのではなく、生徒の学びの事実から教科研究を行う。

社会科の目的は、グローバル社会における「市民性の教育」と「公共性のモラルの教育」にある。人々と協力・問題解決を図っていく民主的な主権者にならないといけない。

そのために授業は、社会科としての真正の学びと協同的な学びを求めていくことになる。

おわりに

子どもは、学びが保障される仲間を見つけると、学びあいに夢中に取り組む。大切なのは聴きあう関係である。

（研究部長　李　洪俊）

各分野報告

地理的分野発表報告

●分野別提案

○提案者

柴田邦浩教諭

（和泉市立石尾中学校）

実物教材の活用や対話活動を重視するとともに、「協同的な学び」を生かした授業を構成することが、生徒の主体的な取組みを促す。またこのことが、学習指導要領の改訂の要点とも合致する最も適切な方法であると考えた。

「交わる・つながる、高めあう」という研究テーマ（副題）のもと、学び合いを生かした授業の中で、生徒が課題に対する意見交流や探究活動をより一層深めるためにはどのようにすればよいかということについて研究を深めた。

とくに教材開発や学習指導案の改善に取り組み、検討を重ねていった。

●公開授業Ⅰ

○題材名

「ヨーロッパ州　EUにくらす人々」

○授業者

川口由美子教諭

（大阪市立咲くやこの花中学校）

「授業者にきた友人からの手紙（架空の手紙）」をもとに授業を展開し、生徒に、EU統合による「ヒト・モノ・カネ」の移動の自由について理解させた。

その後、「EUにくらす人々がもっと豊かにくらすためにはどうすればよいか」について班で話し合わせ、今まで学習してきた知識も活かしながら、地域統合のメリット・デメリットを多面的・多角的に考察させた。

●公開授業Ⅱ

○題材名

近畿地方のようす・歴史的背景をテーマに・転換期をむかえる近畿地方の工業～「自転車」を例に～

○授業者

祐野俊樹教諭

（堺市立八田荘中学校）

古墳時代から明治時代への流れの中、脈々と受け継がれている高い技術力を持って生き残りを図っている企業を軸に、近畿の工業の変遷について考察させた。

教室に自転車を持ち込み、日本の部品メーカーが高い技術力で外国の安価な部品に対抗していることに気づかせ、将来の近畿地方の工業発展には歴史に裏付けされた高い技術力があることを学ばせた。

●研究発表

今西祥幾教諭

（岐阜市立東長良中学校）

自主性を育て、思考と認識を深める社会科指導～「習得」と「活用」を意図した指導計画と指導方法の工夫～

平成二十七年度の全国大会に向けて実践研究の報告があった。生徒が課題意識を持つためには、単元の構造化や認識を深める発問、資料を活用することが有効であることなど、具体的な授業実践をもとにした提案がなされた。

●指導助言

木下百合子氏

（大阪教育大学名誉教授）

これまでのような画一的な一斉授業ではなく、次の三点から授業を構成することが大切である。

すなわち、「①授業はコミュニケーション事象（読む、書く、話す、聞く）であること」「②生徒が疑問を出す所から授業が始まること」「③生徒どうしが協働・対等の関係になっていること」の三点である。

さらに授業の中で、生徒が主体となり、課題に対して意見の違いを見つけ、その違いを認め合い、互いに聞くことができることが大切であるとの助言をいただいた。

●講師講評

濵野清氏

（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

「地誌学習に期待される指導と評価の在り方」と題するご講演をいただいた。中教審答申の中で、特に世界の地理や歴史に関する内容が薄いという課題点が示された。これからの社会を生きる子どもたちにとって普遍的要素として地誌学習は必要であるなど、示唆に富んだ助言をいただいた。

歴史的分野発表報告

●分野別提案

○提案者

中村憲司教諭

（大阪市立茨田中学校）

「近代の日本と世界」の単元開発に焦点化するとともに歴史的思考力を高める指導のあり方について研究を進めてきた。

歴史的思考力とは「①資料をもとに歴史について多面的・多角的に考察する力」「②歴史の知識を活用して現代の社会的課題について意見を論述したり、対話したりする力」ととらえた。

「歴史的思考力」を高めるためには「①課題の設定」「②活動の構成」「③教材の選択・配列・構造化」の三つの改善が不可欠である。「課題の設定」については、教科の本質に迫る明確な課題、「活動の構成」では、協同的な学びを生かした指導と評価、「教材の選択・配列・構造化」では、多様な気づきを促す魅力ある資料の開発が求められる。

●公開授業Ⅰ

○題材名

「『世界の工場』の光とかげ－産業革命と資本主義の確立－」

○授業者

板橋彰教諭

（富田林市立第三中学校）

前時に「産業革命における光の部分」、本時に「影の部分」に視点を当て、産業革命の本質に迫らせようとした。

本時は、「児童労働の問題点を共有する（課題1）」、さらに、「産業革命によって人々は本当に豊かになったのか（課題2）」について様々な資料を読み解きながら、おたがいに考えを深め合わせた。

●公開授業Ⅱ

○題材名

「不平士族と西南戦争」

○授業者

飯島知明教諭

（大阪教育大学附属池田中学校）

「西南戦争の原因は何か（課題1）」続いて「西南戦争の歴史的意義とは何か（課題2）」について考察させ、明治初期の対外政策について理解を深めさせた。「不平士族が明治政府に本当に勝利できると考えていたのか」について様々な資料に基づいて考察させた。班ごとに話し合いを重ねながら、自分の見解を再吟味させた。

●研究発表

久保田重幸教諭

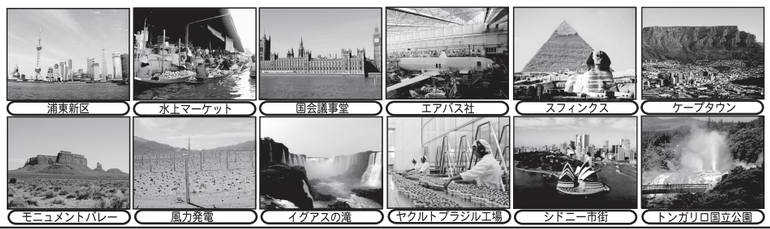
（彦根市立稲枝中学校）

社会を創る力を育てる社会科学習－「わかる」・「つながる」・「つくる」－

「社会を創る力」を「歴史的事象を多面的・多角的に考察し、平和的・民主的な未来社会を創造する力」ととらえた。そのような力を育成するために「わかる」「つながる」「つくる」をキーワードに授業研究を進めている。発表では、「中世の日本」の単元で、ジグソーセッションを取り入れた指導事例が紹介された。

全国中学校社会科教育研究会　監修
★DVD『世界各州の国々』全6巻　各定価￥25,000（税別）

第一巻「アジア州の国々」　9カ国〈約98分〉　中国・モンゴル・韓国・タイ・マレーシア・インド・カンボジア・ベトナム・トルコ
第二巻「ヨーロッパ州の国々」8カ国〈約92分〉　イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・オランダ・オーストラリア・ハンガリー・ロシア
第三巻「アフリカ州の国々」　7カ国〈約66分〉　エジプト・モロッコ・コートジボワール・セネガル・ケニア・タンザニア・南アフリカ
第四巻「北アメリカ州の国々」7カ国〈約73分〉　アメリカ・カナダ・メキシコ・キューバ・ニカラグア・コスタリカ・パナマ
第五巻「南アメリカ州の国々」6カ国〈約71分〉　ブラジル・ペルー・アルゼンチン・コロンビア・チリ・パラグアイ
第六巻「オセアニア州の国々」5カ国〈約53分〉　オーストラリア・ニュージーランド・フィジー・サモア・パプアニューギニア



株式会社アイジーピー
東京都杉並区阿佐谷南1-14-2
TEL：03-3313-2266
FAX：03-3313-2269
http://www.igp-eizou.co.jp

全国中学校社会科教育研究会の先生が編集し，
新学社が発行している社会科の資料集です。

▲歴史の授業が楽しくなる！

▲社会を見る目が変わる！

見せる・聞かせる教材でより深い授業を
山川出版社の中学校教材
好評発売中
全国中学校社会科教育研究会　監修

DVD教材 動く写真集
わかりやすいナレーション！
授業に役立つ解説書付き！
ムービー中学の歴史
（増補版）ムービー中学の歴史
ムービー中学の公民
それぞれ DVD2枚組　本体 20,000 円
社会科の授業に役立つ音を3枚の CD に収録。
中学校 音の社会科　CD3枚組　本体 18,000 円
よりリアルに歴史を捉える授業に役立つ写真集。
中学歴史写真集　55枚 A2判　本体 38,000 円
山川出版社　電話 03－3293－8131
http://www.yamakawa.co.jp/
〒101－0047　東京都千代田区内神田 1－13－13（価格は税別）